

民間事業者による歩道上の自転車駐車場事業の検証結果

1. 施設概要

	施設名称	開設日	収容台数	道路区分	備考
①	青山一丁目駅前 自転車駐輪場	平成 22 年 3 月 1 日	100 台	港区道	コイン式 (無人施設)
②	芝浦ふ頭駅前 自転車駐輪場	平成 22 年 4 月 28 日	104 台	港区道	コイン式 (無人施設)

2. 事業者

①②とも 日本コンピュータ・ダイナミクス株式会社

※道路管轄の総合支所が道路占用許可を取り、自転車駐車施設・器具の設置を上記事業者の負担で実施

3. 施設利用状況（平成 22 年度）

① 2 時間以内 無料利用 10,264 件 48.2% 有料利用 11,046 件 51.8%
② " " 2,335 件 23.4% 7,662 件 76.6%

4. 管理形態（無人）

- ・巡回管理員により、駐車場の整理、不正利用者への警告、周辺清掃を実施
- ・利用料の集金は週 1 回（提携警備会社）
- ・長期間滞留する自転車は、警察に盗難届の有無を照会し、一定期間警告の上、撤去処分。

5. 利用者へのサービス体制

- ・24 時間体制でサポートセンターを置き、機器のトラブルは遠隔操作による開錠を行う。緊急出動も 30 分以内の到着を想定。
- ・停電対策は、無停電装置により停電となった場合でも全ての機器を開錠して取り出せる状況にしてから機器を止める仕様となる。

6. 放置自転車の状況

- ① 放置台数 19 年 181 台 20 年 135 台 21 年 197 台（毎年 5 月末調査）
調査日（23.3.4.）駐輪場利用 33 台 禁止区域内 10 台 外 123 台
・放置禁止区域での放置台数の減少並びに 2 時間無料利用での放置減少
- ② 放置台数 19 年 74 台 20 年 68 台 21 年 43 台（毎年 5 月末調査）
調査日（23.5.18）駐輪場利用 39 台 禁止区域内 4 台 外 37 台
※禁止区域外は、ゆりかもめ橋脚下私有地
・放置禁止区域での放置台数の減少並びに 2 時間無料利用での放置減少

7. 事業者の収支状況

(1) 初期投資額（設備経費）

- ①青山一丁目 10,000,000.（6年リース年1,752千円） 協定期間4年
- ②芝浦ふ頭 11,400,000.（6年リース年2,023千円） 同上

(2) 事業収支額

①青山一丁目

収入額	支出額				支出合計	収支差額
	リース料	光熱費・通信	遠隔対応費	人件費等		
1,997,400	1,752,000	65,586	216,000	830,018	2,863,604	-866,204
率 58.4%						

②芝浦ふ頭

収入額	支出額				支出合計	収支差額
	リース料	光熱費・通信	遠隔対応費	人件費等		
1,317,200	2,023,200	76,853	188,916	1,006,768	3,295,737	-1,978,537
率 28.4%						

※ 二施設合計で約 2,850,000 円程の欠損額が見込まれる。

※ ①②共に事業者の見込み利用率 75%で試算すると 5,584,500 円となり
支出合計 5,314,767 円とほぼ収支が見合うこととなる。

8. 検証

- ・ 2時間無料の利用者が多く、周辺の放置台数が減少していることから、用地の確保が困難な都心区の状況においては、当面の駅前の放置自転車の解消策としては有効である。
- ・ 初年度であり、利用率が低い傾向が見られるが、①②とも下期に利用率の向上が見られる。

青山一丁目

- ・ 放置禁止区域外に放置されている自転車が平均 100 台を超えており、自転車駐輪場の余裕もあり、今後、放置禁止区域の拡大を検討し、利用率を向上させる必要がある。

芝浦ふ頭

- ・ 放置自転車の総数は他駅周辺と比べて少ないが、駐輪場を設けたことにより周辺の環境改善に貢献している。放置自転車の減少と強風による転倒自転車の防止にもなっている。

9. 今後の課題

- ・ 利用率によって収支が見合うかどうか成否の鍵となるため、許可期間の延長と管理経費の効率化を図る工夫が必要となる。